

## 日本アイアイ・ファンド 2025 年度中間報告 2025 年 12 月 18 日

2025 年 10 月、マダガスカルでクーデターが起こり、ラジョエリナ大統領が国外に脱出して臨時政権が生まれ、12 月現在日本外務省はマダガスカル全土に渡航注意の危険情報を出しています。アイアイ・ファンドの皆さんから「どうなっているんだ？危なくないのか？」という連絡を頂きました。現地の情報など報告いたします。

2025 年 10 月 14 日、テレビ、新聞はラジョエリナ大統領の国外逃亡と逃亡をフランス軍が手助けしたと報じました。(以下、マスコミ報道です)

2025 年 10 月 14 日 (Yahoo! JAPAN ニュース「アンタナナリヴ 13 日ロイター」)

「ラジョエリナ大統領が 12 日に出国したことを野党指導者と軍関係者、外国の外交官が明らかにした。大統領府はコメントに応じなかった。

軍事筋はロイターに対し、ラジョエリナ氏が 12 日にフランスの軍用機で出国したと語った。フランスのラジオ局 RFI はラジョエリナ氏の国外退去をフランスのマクロン大統領が支援することで合意したと報じた。

マダガスカルでは停電や断水に反発するデモが 9 月 25 日に発生し、政府の腐敗や悪政、国民への基本的サービスの欠如といった広範な不満を背景に反政府デモへ発展した。ラジョエリナ氏が 2009 年に権力を掌握した際に支援した軍精鋭部隊 CAPSAT の兵士らが命令に従わず、デモ参加者らを支援するように呼び掛けた (10 月 11 日：朝日新聞説)。このため、ラジョエリナ氏は孤立を深めていた。

13 日には首都アンタナナリヴの広場で数千人が参加する反政府デモがあり、参加者らは「大統領は今すぐ辞めろ」と叫んだ。

マダガスカルには約 3 千万人の人口があり、国民の年齢の中央値は 20 歳未満、国民の 4 分の 3 が貧困状態にあり、世界銀行の統計によると 2020 年の 1 人当たりの国民総生産 (GDP) はフランスから独立した 1960 年から 45% も減った。」

ロイター 10 月 16 日 8 : 11 配信。

「マダガスカルでクーデターを起こして権力を掌握した軍のランドリアニリナ (Randrianirina ランヂアニリナ、朝日新聞ではランジリアニリナ) 大佐は 15 日の会見で『近く (大統領に) 就任する』と表明した。……一方、アフリカ連合 (AU) の広報担当者は 15 日ロイターに、マダガスカル加盟資格を即時停止したと語った。」 (10 月 17 日、大統領就任)

朝日新聞 10 月 17 日 23 : 30 配信。

「英 BBC によると、ランヂアニリナ大佐はマダガスカル最南部の州知事を 2016-18 年に務め、22 年まで地方で軍の指揮官だった。2023 年 11 月にはラジョエリナ氏への批判的な言動のため、反乱を扇動したとして、裁判なしで投獄され、2024 年 2 月に学生団体や一部の兵士、政治家の抗議で釈放されたという。(アンタナナリヴ=今泉奏)」

マダガスカルからの第一報は、9月の末にマダガスカル事務所を管理しているララー家のヴラナさんからありました。

「電気と水道が供給されないことで、大学生たちが抗議のデモをしている。市内の一部でスーパーマーケットの略奪もあり、郊外のタンジョバトでも略奪が始まった」

2009年のラジョエリナによるクーデターのために日本に亡命したマダガスカル人の家族からは「デモ隊に軍が発砲している」という戦慄すべき情報も入ってきました。

「軍にラジョエリナ派から特別な報酬金が払われて、デモ隊への鎮圧を試みている」とか、「市民の一部は大統領側から日当をもらって、大統領擁護のデモに出ている」という情報もありました。

当初、治安部隊による学生デモへの発砲によって死者が出たという報道が流れた時、出動軍人に一日3万アリアリが支払われ、この日当分で各人が家を建てる金額になるまで出動し続けるだろうと言われ、学生デモへの反対デモの参加者には日当3千アリアリとプラカードを持たされた、という噂が広がりました。

しかし、スーパーマーケットなどを襲う暴動はすぐに終わり、軍がデモ隊側について、大統領は脱出し、その後つくられた臨時政権には私のマダガスカル人の友人たちがよく知っている人々が参加しているとのことでした（わざとあいまいにした情報ですが）。

どんな正当性もなく、ただフランス政府の後押しだけで政権をつかんだ元ラジオキャスターのラジョエリナが10年以上もこの国に君臨したために腐り切った政権の結末でした。

私のラジョエリナ政権へのシビアな見方には、かなり個人的な思い入れが入っています。しかし、それにはいろいろ理由があります。

2009年の政変は、正当に選挙で選出されたラバルマナナ大統領に対して、ラジョエリナがフランスの支援を受けて行ったクーデターで、法的な正当性も民衆の支持もまったくないものでした。だから、その後ほとんど10年間に渡って、フランス、中国以外の国々は日本を含めて、この政権を支持せず、国際支援は打ち切られていました。ラジョエリナが大統領になるのは、2018年の大統領選挙での勝利からですが、彼は2014年（2004年とも）にフランス国籍を入手していて、本来なら大統領選挙に出る資格さえ持っていなかったのです。

今回は、2009年の政変とはまったく異なります。腐敗したラジョエリナ政権に愛想をつかしたのは、民衆、大学生だけではなく、軍人たちも同じだったのです。

政権を掌握したランヂアニナ大佐は2年間の移行期間の後に大統領選挙を行うと言っています。現地からの報告は、以前と変わらない生活があるとしていますし、「知り合いが政府に入った」とも言っています。たぶん、少しだけとは思いますが、良い方向に向かうのだと思います。

以上、2025年のマダガスカル状況の報告でした。

続いて、現地からのラミー種子収集結果報告です。

### ラミー種子の収集実績 2025 年および 2024 年との比較

2025 年 10 月 30 日	(11 月 5 日)	2024 年
スアビナ事務所	1187 (1187)	97
チンバザ公園	3900+ (4243+)	1504
アンジアマングラーナ	2500+ (3000+)	
合計	7587+ (8430+)	1601

+は現在収集中でさらに増える予定です。

苗袋は 1 万 0 袋をアンジアマングラーナへ送っています。

去年のラミーの実績と比較すると、スアビナ事務所だけで十倍 (!) で千個を超えたことは大きな喜びで、将来への希望となりました。

2025 年 5 月 16 日のスアビナ事務所からの報告ではラミーの種子は 940 個だったので、ラミーは花が咲いて半年で果実のほぼ九割までが落果し、10 月にはすべて落ちています。



写真左 :スアビナ事務所のラミー  
2025 年 5 月 16 日 940 個

写真右 :スアビナ事務所のコーヒ  
ー、2025 年 8 月 13 日

マダガスカルではいろいろな果実が期待できます。

ラミーが芽生えから果実をつけるまでには、高地のアンタナナリ

ヴ 25 年かかりましたが、低地のアンジアマングラーナでは 15 年でした。コーヒーも種子から芽生えたものをほおっておいたのですが、10 年もたつと、それなりに収穫できるようになりました。

ほんの少しだけ樹木を植える慣習が社会に根づくだけでマダガスカルでの人の生活はほんとうに豊かになるのだと、確信しています。

マダガスカルでは毎年 2 月 15 日をナショナル・プランテーション・デー (国民植樹日) として、学校や役場など公的機関は植樹をすることになっています。私たちが作り上げたマダガスカルの固有種ラミーの苗木をこの公の植樹事業に加えることで、この国の可能性が大きくなることを期待したいと思います。

## 日本とマダガスカルのラミー苗



東京では：

7月1日、ラミー No.1 芽吹き。  
発見が遅れて日に曝されて子葉が茶色に変色していたので日陰に救助（写真なし）。

7月7日、ラミー No.2 芽吹き。  
（左写真）

7月10日、ラミー No.1 枯れる。

No.2 の子葉の半分がスズメ？に食害される。7月18日、ラミー No.2 の双葉の真ん中に本葉の三枚目が展開してきた（上右写真）。



7月24日、なんとラミー No.2 と同じ鉢に No.3 が芽吹いていた（左写真）。翌日には No.3 は中央の写真のように大きくなっていった。これを掘り出してみるとかなり長い一本の根が出ていた（右写真）。この No.3 を鉢に植え替え、No.2 の左においた。（下写真）



7月27日、ベランダのラミー苗 No.3（左）と No.2。釣り糸をはずした。No.3 の双葉が少し展開。

7月29日、40℃に迫る熱波の日。朝昼晩とラミーに水をやる。No.2は17センチ、No.3は15センチ。

石原さんの夢を見た。(石原さんの顔が)ふっくらして、あの世はいいところらしい。夢の中で見たのにすでに死んだ人と知っていて、その石原さんに向かって怒鳴っていた。

「あと三年も生きていれば、もうちょっと面白い仕事ができるのに！」

どうも下意識では「これからもうちょっと面白くなる」と思っているらしい。ラミーのお陰だ。

8月1日、ラミー苗鉢に長さ1センチ直径3ミリほどの白い太い根が横向きになっていました。「何かの雑草の根かな？それにしても太いなあ」と深く考えずに抜きました。長さ4センチの根の先にはひげ根もパラパラついて、反対側に緑と根と同じ白の混じった小型バナナの房のようなもの！ラミーだ！（No.4）

あわてて埋め直し、もう一度考えて大きな鉢に根を痛めないように入れなおし、No.2とNo.3の待つバルコニー花壇に移動！そして水やり。ドラマはまた起こってしまった。



左写真：8月1日 No.4 ラミー苗 15：01

8月7日、昨日は37℃という記録的な暑さだった。ラミーは昨日、No.2、No.3がともに子葉を落とした。おむつが外れた感じか。

8月10日、No.3、No.2、No.4の順に苗が揃った。しかし、No.4だけ下に水盤を置いた。それが悪かった。8月19日、No.4が突然枯れてきた。昨日、赤松さんのところでもラミーが3本芽吹いたという。8月21日、昨日、ラミーNo.4に水をやったら水流に負けて倒れて、それっきりだった。今日抜いてみると、根はまったく張っていなかった（下写真）。鉢の下に置いた水盤がよくなかったと今では分かる。そのために、水が腐ったのだ。



10月13日、ベランダにほっておいた鉢からラミーが芽吹いた（No.5）。驚き！



写真左 No.5（11月13日：風呂場の出窓で保護中）

写真右 No.2（11月04日：12月には枯れました）

マジュンガ大学国際ラミー植林協会より。



こんなにラミー苗ができちゃったという報告だった（WhatsApp より）。

写真左 :9月10日、マジュンガ大学苗畑（発芽させるのは11月と言っているのに！）

10月17日、ラミー苗の発芽報告がアジャさんから。

マジュンガ大学では種子1000個から280苗、ママさん苗床500個から110苗 合計390苗。アンジアマンギラーナへ6000袋をまず送

るとララと相談決まり、とのこと。まあ、まあ今年度の仕事も動きだした。

アジャさんのメールには政治向きはゼロ。これもすごいので、（特に政治社会状況を問いただすことなく）ほっておく。

2025年11月4日、宇部市のときわ公園から丁寧な返事があり、ラミー苗を動物園で育てたいという。願ってもないこと。11月6日、東京駅で下関から上京していた高校同期の倉田さんにときわ公園に届けてもらうためにNo.3のラミーを手渡した。彼には贅沢にも東京駅構内豪華カフェでコーヒーをおごったのだった。倉田さん曰く「あんたにおごってもらったのは、これが人生初じゃ」。

翌日、倉田さんはときわ公園の動物園で係の村田さんにラミーを手渡し、またコーヒーを頂いたとのこと。

こうして、わが家で育ったラミー5本のうち3本は枯れ、1本は宇部市へ、1本は冬越しのために風呂場の出窓で胡蝶蘭と仲良く並んでいる。

赤松邸宅では南向きの豪華な部屋でラミー苗4本が複葉まで展開して（マジュンガ大学の苗の状態とまったく同じ）元気で冬越し。それが心頼み。

2025年12月16日、『物語マダガスカル』執筆中（中公新書）。

「半分は人の歴史ですよ」と編集者に念を押されました。ほっとくと「アイアイの話で始まり終わるかも」と。人の歴史をひもとくと、私がいかに人そのものには興味がなかったかが、よく分かります。ひとつひとつが勉強の日々です。そのひとつ、孫にフランス語の翻訳方法DeepLの使い方を教わりました。いやあ、最近の翻訳ソフトはすごい！

そのもうひとつ、マダガスカルのドゥアニ信仰についてまとめた江端希之の『躍動する聖地』（春風社）そ高校同期の近藤さんに紹介されました。面白いどころではありません。「これを知らなかったらマダガスカル人については語れなかった」と思うほどの本です。

もうひとつふたつ、大きなニュースがあります。

ひとつは酒井雅義さんが来年2月のマダガスカル行きにつきあってくださいることです。彼は拙著『はだかの起原』の中で、ナリンダ湾を巡る調査に同行し、私の延々たる話につきあい、適切な合いの手を入れる雑賀青年として登場していただいた方です。

酒井さんはジャイカの一員として、奥さんと二人三脚でアフリカ諸国を巡り歩いてきた方です。しかし、「もうアフリカはいいです」とおっしゃって、米子に籠って家具職人として大成しようとしているところだったのですが、無理やり引っ張り出すことに成功しました！

「2週間だけですよ。長いのは嫌ですよ」と言いながら、マダガスカルまで自費で来ていただけるのは、ありがたいことの極みです。彼に同行してもらえれば、怖いことはありません。わが人生終局の快事です。

もうひとつ。マダガスカルの日本大使館とジャイカ事務所に知り合いができそうです。最近着任されたので、あと2年の期限と思っているラミー母樹基地建設に（無理やりでも）かかわってもらえるかもしれません（できないかもしれませんが）。

そうそう、植林などを撮影するためにドローンを購入し、ひそかに操縦を勉強しているところです。ちょっと変わった映像をお届けできるかもしれません。やってみて分かったのですが、自動車の運転と同じで、慣れないと初歩的なミスばかりです。

これがもっと早くあったら、動物撮影はまったく違っただろうなあ、と思っています。が、コンピューターでのAI作業と同じく、こちらの人生の残り時間が足りません。

2025年12月18日のマダガスカルからの報告では、「スアビナはまったく問題ありません。ラミーの花が咲いています。去年よりさらに花が多いようです」とのこと。

2025年も残りわずかになりました。皆さま、よいお年をお迎えください。